光学機械・レンズ製造業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物（小）	事故の型	労働者規模
2019	3	6～8	排水処理室において、高さ約２４０センチメートルのステージ上において、吸着槽に取り付けられたｐＨ計の清掃作業を終え、バケツを片手に持って階段を降りていたところ、地上からみて４、５段目（高さ約９６～１２０センチメートル）より仰向けに地面へと転落し、頭蓋骨骨折、右頭蓋部硬膜下血腫の怪我を負った。被災から約１０日後に死亡したもの。	413	1	1～9
2013	9	8～9	ガラスの研磨や洗浄作業に従事している被災者は、被災当日作業準備中に機械の前にしゃがみ込み、呼びかけに反応しなくなり、病院に搬送され「小脳出血」「脳幹部出血」と診断され、死亡した。	921	90	100～299
2004	1	15～16	倉庫内のエレベーターを使用して作業机数脚を2階に上げようとした際に、搬器内の作業机が昇降路の壁に引っかかり搬器が途中で停止したため、被災者が搬器に入っていたところ、2階床面と搬器天板の間に挟まれた。	214	7	100～299
2004	10	16～17	デジタルカメラ等のレンズの洗浄作業中、バスケットにレンズを差し込み、洗浄槽（トリクロルエチレン）に浸して洗浄していたところ、当該レンズが洗浄槽内に落ちたため、身を乗り出してレンズを取ろうとした際、有機溶剤の蒸気を吸い込み、誤って洗浄槽内に転落した。	514	12	1～9
2001	7	8～9	ガラスモールド用金型を加工するため、ステンレス製の円筒(重さ20kg)に2875rpmの回転をかけたところ、円筒を挟んでいたチャックから円筒が外れて胸に激突した。	151	4	300～499
		14	多軸タップ盤というネジを切る機械(約800キログラム)を手動のフォークリ			10

2000	6	～ 15	フトを使用して移動させ、さらに水平にするための微調整を行っていたときに、機械が倒れ下敷きになった。	159	6	～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。